

状、歴史などについて学術的に解説されいたことに学ぶべきことが多かった。夕刻「米子国際ホテル」に着き旅装を解く。

第3日目の9月28日も早朝出発し出雲国庁跡、国府跡を見学の後「島根県立八雲立つ風土記の丘資料館」につき本間恵美子学芸主任のご案内にて館内を見学する。昭和43年10月国の庁議において決定され、土地の公有地化が図られ、47年9月9日開館された。考古資料を中心とした古文書、大刀、鏡、出雲風土記写本など3000点が系統的に展示されている。『研究紀要』『館報』等毎年発行され、当地方におけるリーダー的存在である。この敷地内にある岡田山1号墳を見学した。ここより出土した刀剣の調査で昭和58年刀身部分から「額田部臣」等の銘文が発見され話題をまいたことは記憶に新しい。続いて県指定史跡「岩屋後古墳」「山代郷正倉跡」「八重垣神社」を見学した後、玉湯町立出雲玉作資料館を見学した。規模は小さいが全国唯一の玉の専門館であり、史跡公園の東側高台にある。玉の原石の展示「めのう細工」「布志名焼」の歴史も展示されており、郷土の歴史を知る上で貴重な施設である。歴史的著名な場所においてはこのような資料館が全国に建てられることを望みたい。玉造温泉とともに「史跡と古代ロマン」

を求めて見学者が全国より来られている。玄関横に6世紀前半の築造と思われる鳥場1号墳があり石棺が見える。続いて世上を賑わせた著名な「荒神谷遺跡」を見学した。昭和59年全口の弥生時代銅剣の総発見数を上回る358本の銅剣が発見され、翌60年7m離れた場所で銅鐸6点と銅矛16本が同時に発掘された。当時の出雲の国の政治的文化的、地位の高さが推し測られる。夕刻出雲大社へ参拝し、調査の無事を祈願し、湖北道路を東へと向い松江温泉「ホテル一畑」へ投宿した。宍道湖面に夕日が美しく映えた。

第4日目は仲仙寺古墳群、史跡岩舟古墳を見学の後「足立美術館」を見学した。入館料2,300円は高いが、大観の絵、寛次郎、魯山人の陶芸品を見、雄大な自然の峰々と庭園の織りなす風情は最高である。近郊へ出向い折など一見して損はない美術館である。続いて本学資料出土地西伯郡高麗村長田地区及び高井谷村を調査し位置の確認を行なった。その後重文指定の「石馬」ある淀江町の遺跡を見学した。安江禎晃教育長をはじめ中原斉、高口勝人、(県派遣)、中山和之、岩田文章氏等のご案内にて上淀廃寺とその出土資料である壁画等を見学させていただき無事終了し米子より帰路についた。その他ご案内いただいた多くの方々にお礼申し上げます。

## 編集後記

第27号をお届けいたします、今回もお忙しい中ご執筆いただきました諸先生方に厚くお礼申し上げます。

近年新聞、雑誌などで大学に関する記事が多くなり、また日旺など定期的に報道されている新聞も見かけます。大学における自己評価、自己点検も行なわれ受験生達もそれを参考に大学選びが始まっているともいわれています。本学も100余年の伝統を有し、多数の校友のご協力と法人の努力により、順調に充実発展してきましたが、大学の冬の時代となり、

やはり危機観もひしひしとせまっております。教職員一同智慧をしばりこの難問に対処していきます。本彙報もその意味で懸命に努力していきたいと思えます。「開かれた大学」として公開講座も順調に推移しております。関係者の皆様の一層のご指導ご協力をお願いするものであります。

表紙の写真は「銅戈」であり朝鮮半島渡来といわれ、戦国時代の遺物です。青銅製の武器で刃部は尖鋭極めて実用性にとむ形式です。下図写真26.8cm。 【角田芳昭】